

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （経営者）	・目の前の不安な事項として、原油の値上がりがどこまで続くのかという話を話す人が多い。一方で、復興景気に対する期待がある。政権が変わることになれば、今のムードより悪くなることはない。また、放射能問題が収まれば外国からの観光客も戻る。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕 （従業員）	・観光最盛期にともない、輸送量の増加が期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・暖かい季節に向かうことになるため、商店街のイベントが増えることで、人の動きが活発になる。
		商店街（代表者）	・道内からの近隣温泉街等に対する集客は増加傾向にあるため、中心部ホテルを利用する客も2次的な効果として増加すると見込まれる。また、外国人観光客も2月末以降わずかながら増加傾向にあり、ホテルや交通機関、お土産等の売上アップが期待できる。
		商店街（代表者）	・4月は悪かったが、5～8月にかけては、航空機の機材大型化など、明るい話も多いことから、来客数は増加するとみられる。期待を込めて良くなるとみている。
		百貨店（販売促進担当）	・旭川空港発着便の機材の大型化のほか、6月1日以降の旭川平和通買物公園40周年事業による観光客増加の効果が期待している。
		スーパー（店長）	・東日本大震災後の需要がひとまず終わり、これからは自分たちの物を買うようになるとみられる。
		衣料品専門店（店長）	・前年の東日本大震災後と比べて、客の消費が上向いている。気温の影響から来客数は伸び悩んだが、今後の実需に応じて消費が上向くことを期待している。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー減税やエコカー補助金による特需への期待も含めて、販売量の増加が見込まれる。
		観光型ホテル（経営者）	・旅行会社の先行予約状況が若干回復しており、航空機の供給座席数も増えていることから、夏場にかけて若干の回復が予想される。
		観光型ホテル（スタッフ）	・国内旅行、イベント、大会等の需要が堅調に推移している。近隣アジアからの観光目的の動員は不振だが、トータルでは好況を呈しているため、今後についてもやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行の見通しは若干の増減はあるものの、夏場はまずまずの滑り出しを見せている。国内旅行も4月が前年比で実質20%アップくらいでスタートしており、当面堅調に推移する。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見ると、国内旅行は5月が前年比116.0%、6月が前年比135.6%となっている。海外旅行は5月が前年比115.3%、6月が前年比116.3%となっている。前年は国内旅行が不振だったため、例年に比べ6月への期待が持てる。
		旅行代理店（従業員）	・北海道からのアウトバウンドは関東のテーマパーク需要が戻ってきていることもあり、拡大傾向が継続する。一方、北海道へのインバウンドは女満別空港や釧路空港などの航空座席供給量が前年比で増加しているため、今後の伸びを期待している。
		タクシー運転手	・これから観光シーズンに入り、タクシー利用客も増えてくると考えられるため、2～3か月先はやや良くなる。
		通信会社（社員）	・必要な物に対しては、前向きにお金を使いたいという客の意識が感じられるため、これから新生活が始まり、落ち着きを見せ始める時期には明るい展望が見えるようになる。
		観光名所（従業員）	・今月4月は天候が不順だったこともあり、観光客の利用が停滞したため、東日本大震災からの回復基調が鈍化している感がある。ただし、この先、6月から7月にかけては地元で大きな催事が続くなど、道内外からの来客が見込めるため、地域への波及効果が期待できる。
		観光名所（職員）	・ガソリン高騰の影響もあり、道内や市内からの来場者の増加が期待できる。また、東南アジアからの来場者も期待できることから前々年並みの水準で推移することが期待できる。
		美容室（経営者）	・食事、旅行、買物、コンサートなどの話題が以前より多くなっており、今後消費意欲が活発になる雰囲気を感じられる。
変わらない		商店街（代表者）	・今年は夏のバーゲンのスタートが遅れると聞いているため、客の買い控えが起きることが懸念される。
		商店街（代表者）	・景気が右肩上がりにならないことに加えて、そうかといってこのままでいくという見通しも立たないため、景気としてはあまり良くないと考えている。

一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ2～3か月の売上の推移をみると、月単位というよりも週単位で状況がころころと変わっている。良かったかと思うと急に売上が悪くなったり、逆に悪かったと感じると急に盛り返してきたり、非常につかみづらい状況にある。そのため、今後も似たような状況が続く。
百貨店（売場主任）	・今後の夏の気温の動向が発表されたが、平年よりも気温が高いため、初夏にかけて夏物の商材の動きが活発になることを期待している。ゴールデンウィーク期間中は道央圏と当地を結ぶ高速道路が完全開通した関係もあり、流出、流入も含めて来店促進をかけていきたいと考えている。
百貨店（売場主任）	・買上客数が2月は前年比96.6%、3月が前年比97.5%、4月が前年比90%台前半と前年割れが続いている。今月に入り、気温も上がり、天候要因によるマイナスはなくなったが、回復傾向がみられないため、今後も変わらないまま推移する。
百貨店（販売促進担当）	・震災復興や消費税の増税問題など、問題が山積みの状態が続いているため、今後も消費拡大のマインドがなかなか起きてこないとみられる。
百貨店（役員）	・今後も大きな変化はないとみられる。
スーパー（店長）	・以前までは誕生祭のような大きな売出しがあった月は、平月と比べて売上が突出して良かったが、最近はどうな企画を打ち出しても一過性の効果しかなく、終日、客でにぎわうことがなくなってきている。
スーパー（店長）	・一気に気温が上昇したことで、今後に向けて夏型商材の動きが活発化する。また、来客数については、6月で高速道路の無料化社会実験終了から1年が経過することで、それ以降への期待が持てる。
スーパー（企画担当）	・入学、入社等の家庭内でのお祝いを始めとする特別な行事に際しては、高単価商品を購入する傾向があるが、普段の食材は低価格の商品が動きの中心であり、この傾向はこここのところ変わらないため、今後も同様の状況が続く。
衣料品専門店（店長）	・来店する客と話しても、なかなか良い返事がもらえない状況にあるため、今後も変わらないまま推移する。
衣料品専門店（店長）	・クールビズが加速し、高単価商品の動きが鈍ることが見込まれる。
衣料品専門店（店員）	・夏物衣料は商品単価及び客単価が下がることになる。
家電量販店（経営者）	・売上の半分以上のウエイトを占めていたテレビの売上が急速にダウンしており、今後に向けて回復する要素がみられない。このため、オリンピック需要にもあまり期待できない。
家電量販店（店員）	・早い時期からエアコンなどが動いてくれれば活気が出るが、5月の天候次第の面がある。
家電量販店（地区統括部長）	・4月が予想以上の落ち込みであったため、2～3か月先の景気も楽観視できず、厳しい需要が続く。
高級レストラン（経営者）	・景気が良くなる材料が見当たらない。
旅行代理店（従業員）	・上期実績が前年比97.8%となっているなど、客の動きが停滞気味であることから、今後も変わらないまま推移する。
タクシー運転手	・4月のタクシー利用実績から判断して、5月以降も東日本大震災で落ち込んだ前年よりは良くなるとみられるが、売上は前年比で若干のプラス程度で推移する。
タクシー運転手	・この先の経済動向が不透明で先が見通せないなかで、原油価格の動向なども、まだまだ落ち着きを取り戻していない状況であるため、これから先においても今の状態から大きく変わることはない。
タクシー運転手	・景気が良くなる要素が思い当たらない。ただし、注文数が前年比で若干の減少となっていることから下げ止まりの兆しを感じる。
住宅販売会社（経営者）	・消費税の増税問題等の関係で政局が安定していないこともあり、株式市場も行き止まっている状況である。
住宅販売会社（従業員）	・経済情勢に特段の変化がなければ、客のマンション購入に関する積極的な姿勢に変化は訪れないとみられる。そのため、需要が供給を上回っている現在の状況が当分続くと思われる。
やや悪くなる	スーパー（役員） ・現在の特殊な状況とは別に、消費税の増税問題や社会保険料の問題などの関係で消費者は守りに入るとみられることから、現状より良くなることは考えづらい。また、景気が悪くなると市場価格がますます下がることが考えられるため、消費者の買物動向が安い商品にかたよるようになり、小売業にとって、さらに厳しい状況となる。

	スーパー（役員）	・5月に泊発電所3号機が停止することにより、北海道は全国で最も遅れて原子力発電所停止の影響を受けることになる。今後、電力使用量規制、電気代の値上がりの影響が生じることになれば、消費マインドの冷え込みが予想される。	
	コンビニ（エリア担当）	・大雪だった冬以降、来客数が低調に推移している。また、異業種が食品やアルコールを扱うようになり、競争相手が増加しており、客も分散している。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・医薬品のネット販売の自由化が決まりそうで、プラスになる要素が見当たらない。	
	高級レストラン（スタッフ）	・厳しい経済状況のなかでも、北海道版グルメガイドの星付きレストランは当分、繁盛が続く。しかし、非掲載店にとっては厳しいものとなる。また、ゴールデンウィークの海外旅行などの反動で、ますます夜の外食消費が落ち込むことになる。	
	高級レストラン（スタッフ）	・製菓会社の接待費が減少されたことで、ホテルやレストランの利用が少なくなっており、今後の売上減少につながる。	
	スナック（経営者）	・今年は冬が長かったため、人出が少し増えてくることを期待している。	
	通信会社（企画担当）	・値下げを望んでいる客が増えているため、今後についてはやや悪くなる。	
	パチンコ店（役員）	・原油の値上げに加えて、夏場の電力不足が予想されるため、先行きの景況感是不透明である。	
	悪くなる	○	
企業動向関連	良くなる	輸送業（支店長）	・震災復旧物件に加えて、北海道新幹線や札幌の大型オフィスビルの建設、競馬場の改修など、大型案件が具体的になっており、これからの荷動きが期待できる。
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員）	・工場設備の増設や機械への設備投資、人員確保増を図る企業など、経営環境に改善がみられる。
		建設業（経営者）	・土木、建築とも、公共工事の発注が本格化し、工事の施工も物件によっては最盛期を迎える。民間工事は住宅関連が順調に進捗する。ただし、東日本大震災の復興需要の関係と原油高の影響で労働賃金、資機材の単価高騰が心配される。
		建設業（従業員）	・民間大型医療施設建築工事の発注が相当数予定されており、さらに同種の建替え計画も数を増している。
		通信業（営業担当）	・特定の需要によってではあるが、しばらくは業績が向上する見込みである。
		コピーサービス業（従業員）	・受注量もさることながら、単価も非常に上がってきていることから、今後についてはやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・今後、基幹産業である農業の繁忙期を迎えることで周辺業界の受注が活発になる。ただし、収益性は低く推移する。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・豪雪の影響で建設の発注が遅れているが、今後にかけて回復することになる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・5月以降、久しぶりに鉄骨案件が多く始めている。受注単価が安いため、苦戦しているようだが、消耗資材や設備関連の販売に期待が持てる。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・今後2～3か月先に、既存受注状況に対して増減が予想される案件が見当たらない。
家具製造業（経営者）		・景気の良い状況はしばらくは続く。しかし、日本が抱えている構造的な問題が解決の方向に向かわない限り、成長が鈍ることになる。	
金属製品製造業（役員）		・現状では客の購買意欲がわからないのではないかと考えられる。住宅減税、子ども手当の拡大、給食費無料化などの政策を行うとともに、消費税を少しずつ増税することで購買意欲を拡大させることなどを期待したい。	
輸送業（営業担当）		・原油の値上がりで船社の燃料調整金は一部荷主転嫁できるが、陸上部分の転嫁はほぼゼロであり、経営上、非常に厳しい。また、朝鮮半島情勢の影響が、日本にも及んでくることを危惧している。	
金融業（企画担当）		・道内観光は最盛期を迎えるが、ガソリン価格の高止まりでドライブ旅行が控えられる。原材料価格の上昇も企業収益を圧迫する。設備投資は医療福祉関連で新增設がみられることから底堅く推移する。	
司法書士		・時期的な面も考慮すれば、今後、景気回復が図られることで多少は回復に向かうことになるが、大きな変化はないものとみられる。	
司法書士		・良くなってほしいが、経済の好転など良い材料がない。政局の不安定、総選挙がらみなど、マイナス要因だけがクローズアップされる状況では、今後への期待が持てない。	
やや悪くなる		○	
悪くなる	—		

雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・地域の基幹産業が安定していることに加えて、本州の製造業の好調がこれから波及してくる。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人情数は前年、前々年と比べて高水準で推移しているため、今後も安定的に増加する。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・今後も4月と同様に前年比で大幅な求人増が見込まれる。特にこれまで低迷していたスナックなどの飲食店の求人が上向きになりそうな気配がうかがえる。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・各業界に話を聞いても、今後の景気が良くなる要素が見当たらない。
		人材派遣会社(社員)	・良くなる要素が見当たらない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・季節的に経済が動き始めているが、今後、景気が良くなるような良い要素は見えていない。観光関連やアジア系の観光客の推移を見守りたい。
		職業安定所(職員)	・有効求人倍率は22か月連続して前年を上回っているが、依然として低い水準で推移しており、今後も厳しい雇用環境が続く。
		職業安定所(職員)	・製造業を中心に小口求人が少しずつ出てきたことから、今後の求人増を期待したいところではあるが、求人開拓で企業訪問しているなかでは、各企業とも現状維持で状況変わらずとの感想が多く、今後も同様の状況が続く。
	学校[大学](就職担当)	・北海道においては、あまり変動要素が見当たらない。良くも悪くもならないとみられる。	
やや悪くなる	○	○	
悪くなる	—	—	